

これからは猛暑に注意！

～天候不順に注意が必要

毎年天候不順が挨拶になっている今日この頃である。7月上旬の日本列島は猛烈な暑さに見舞われ、熱中症による救急搬送が1万人を超える週があり、死者が出てしまう程の記録的な猛暑となった。8月10日、11日には40度を超える地域も出ており、高知県四万十市では気象庁が観測を開始して以来最高の41度を記録、連日熱帯夜となりクーラーなしでは寝られない寝苦しい日々が続いている。また、7月中旬から山形や山口、島根、新潟、秋田地方で記録的な豪雨に見舞われ死者が出ている。東京では局地的な豪雨と落雷で交通機関の麻痺や停電に見舞われた。巷で一時騒がれた10年冷夏説を一蹴した天気となっている。いったい今後の天候はどうなるのであろうか、気になるところだ。

気象庁は7月中旬に北海道と太平洋側の海岸地域に対して低温に関する異常気候早期警戒情報を発表したが、一転して関東・東北全地域にかけて8月14日以降に約1週間、高温に関する異常早期警戒情報を発表している。四国・九州・奄美地方も少雨や高温に関する異常気候早期警戒情報を発表、沖縄や奄美・咲洲諸島では梅雨明け以降干ばつに見舞われておりサトウキビの収穫に影響が出る予測となっている。なぜこのような極端な天気となるのだろうか？

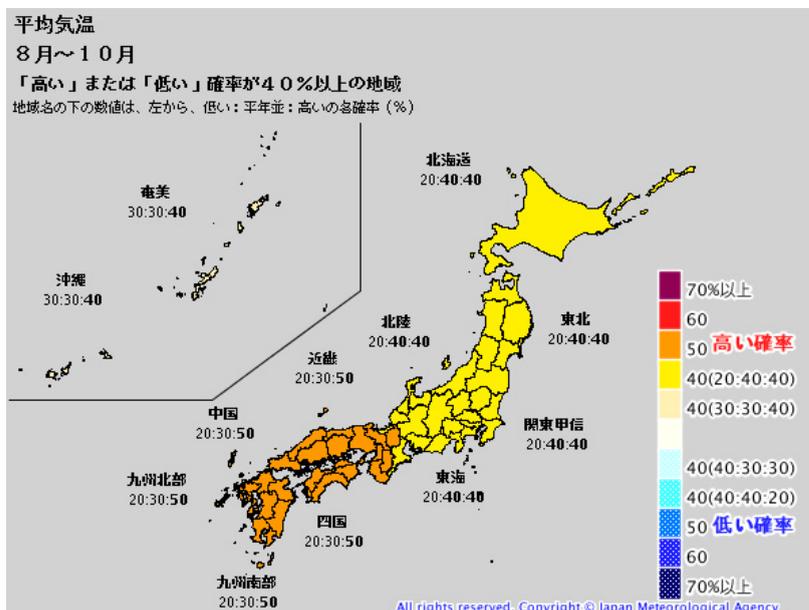
例年の夏であれば太平洋高気圧が日本列島を覆い気温が上昇、昨年の夏のような天候となる。然しながら、偏西風が南に蛇行し太平洋高気圧が南に押し下げられ梅雨前線が南下、東北地方に「戻り梅雨」なる現象が発生、東北地方や日本海側沿いに前線が停滞して局地的な豪雨をもたらした。現在、日本列島上空に太平洋高気圧の上にチベット高気圧が覆いかぶさっておりこれが気温上昇をもたらす原因となっているようだ。

東北地方はこれから出穂の季節となる。然しながら例年にない長雨と集中豪雨に見舞われたため、いもち病が発生している地域が多く生産者は神経を尖らせている。この先、いったいどうなるのだろうか？



いもち病

気象庁の1か月予報によると8月2週目以降は、気温が平年より高い確率で高くなる可能性の方が高くなっている。また、右図の通り3か月予報でも気温が高い確率が高くなっている。これからは猛暑に注意が必要で特に出穂後の水管理と畑作での定植時のかん水作業が重要となってくるだろう。畑でかん水設備のない圃場は水分不足によるストレスでカルシウムやホウ素欠乏が多発し品質低下に繋がる懸念もある。猛暑に対する対策を講じる必要があり実りの秋まで気が抜けない日々となりそうだ。



索引：気象庁3か月予報

鳥獣害の被害が拡大傾向に

～ 「ウソかホントか？」天候不順による食べ物不足が影響か？

天候不順は作物の生育鈍化だけではなく、例年にも増して鳥獣害の被害が全国で増加傾向にあるようだ。青森・秋田県では130円切手のモデルで天満宮では神の使いとして知られている「鶯(うそ)」が、早春に桃や桜の花芽を食害したとの報告がある。リンゴの大産地である弘前周辺では例年以上にネズミの食害が多い。また過去に被害を受けた事がない農地でウサギの食害や人里にシカやクマが出没し被害見舞われたケースも。近年の野生鳥獣による被害状況や農産物被害金額と対策を調べた。農水省では25年度予算で鳥獣被害対策関連予算(概算決定)として15事業で総計441,998百万円を計上しており(注:155事業中14事業が内数金額内での関連計上で全額ではない)鳥害被害防止総合対策交付金は24年度予算額と同等の9,500百万円を計上している。数字でもお分かりの通り農作物被害総額は増加傾向にあり深刻化している。支援内容としては地域ぐるみで鳥獣被害防止に対する取組みに対して支援金がなされている。また、24年度補正予算からは都道府県段階で基金を造成する事が条件となっているが通常の捕獲目標を強化した「緊急捕獲等計画」に基づいて支援がなされている。支援内容は野生鳥獣の緊急捕獲活動の支援、地域における侵入防止柵の機能向上の支援で定額50%の補助、12,938百万円支援が出ている。野生鳥獣の生息は固定しておらず絶えず移動し変化しており自然条件にも影響されるため予測が立てにくいそうだ。対策としては被害が見られたら集中的に対策を講じない限り被害を防止出来ないようだ。



花芽をついばむウソ



鶯(ウソ)



ネズミの食害(櫛引商店様ご提供)

21UK会 現地研修会開催 in 山形

去る8月7～8日、山形県にて21UK会現地研修会が開催され、総勢33名が参加した。今回の現地研修では全面的に、地元山米商事(株)の協力のもと視察が出来た。改めて感謝を申し上げたい。現地では、特別栽培用の有機肥料で栽培中の“夏秋トマト”、県内で普及が進んでいる鉄コーティング種子を使用した“はえぬき”の圃場、更に県内あげて推進している“つや姫”の栽培圃場及び室内研修が行われた。鉄コーティング種子を用いた直播栽培では、県内で普及している背景として高齢化や大規模化による移植苗作りの限界、はえぬきという倒伏に強い品種が栽培に適していること、播種同時処理除草剤の登録が下りた事により作付面積が増加している。視察した生産者の話では、収量も移植苗栽培とほぼ同等の収量を確保出来ているという。ただし、直播といえども省力ではなく、手抜きの考えで導入を図ると失敗する事例が多いとの事。水持ちの良い、均平な圃場で試験的に開始する事が成功の鍵だという事が参考となった。また、つや姫は栽培できる生産者が決められている。高温に強く1等米比率も高い食味も良好なつや姫は、市場に評価されつつあり、期待のコメとして注目されている。山米商事(株)は特別栽培用の有機質肥料も改良、さらに高温に負けない安定収量の確保と良食味米生産のために苦土・微量要素資材の投入を行い1等米比率の向上を高める指導を行っている。会を通じた会員相互の情報交換は励みにもつながる。今後のますますの会の発展を祈念したい。



猛暑に大雨、冷夏に少雨など、自然に悩まされることの多い夏ですね。次号は当紙も夏休みを頂きます。次回発行は9月11日です。今話題となっている、コメを特集します。暑さ厳しき折り、熱中症などにはくれぐれもご注意下さい。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>